

石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更](原案)の該当箇所
 第__章 51 ページ

2)河道の掘削等

自宅周辺の■■■■エリアは天然記念物のオジロワシが生息地であり、河床で発見された化石はヌマタナガスクジラと命名されている貴重な化石も出ている。むやみに河道掘削をすることで、ストレートに水量を流すことに不安もあります、流域治水の考え方にはわざとオーバーフローすることで洪水被害が軽減されるケースもお聞きしています。河道掘削よりも自然環境への負荷を軽減する意味でも霞堤・遊水地等の整備の方が望ましいのではないのでしょうか。水田農地の5年問題について国交省から農水省にもっと働きかけていただきたい、畑への転換で水田のダム機能が失われるマイナス面を農水省の政策によって助長することは間違っていると思います。よく話し合ってください。

※希少生物の生息地を特定できる情報を含むため、一部不開示

【説明】

雨竜川中流区間の治水対策については、周辺の土地利用状況や「農地をできるだけ減らさないでほしい」という地域の意向等を踏まえ、河道掘削による洪水被害の軽減を図る対策が妥当と判断しております。

なお、河道掘削にあたっては、魚類や鳥類等の生息の場となっているワンド・たまりや水際部、瀬と淵、河畔林、草地環境等の保全及びサケ、マスやカワヤツメ等をはじめとする魚類の移動の連続性確保に努めることとし、学識経験者等にご意見をいただきながら、実施していくこととしております。

また、流域治水プロジェクトに位置づけられている「水田貯留」の取組が円滑に推進されるよう、引き続き、農林水産省と連携して参ります。

石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更](原案)

2) 河道の掘削等

雨竜川の上流区間の河道断面が不足している区間は、河道への配分流量を安全に流下できるよう河道の掘削等を行う。中流区間については、土地利用や地域の要望等を踏まえ、河道の掘削等により洪水被害の軽減を図る。

なお、河道掘削にあたっては、魚類や鳥類等の生息の場となっているワンド・たまりや水際部、瀬と淵、河畔林、草地環境等の保全及びサケ、マスやカワヤツメ等をはじめとする魚類の移動の連続性確保に努める。また、再堆積にくい掘削敷高の設定、河岸の侵食による土砂供給を防ぐための植生回復等による河岸の保全のほか、「樹林化抑制を考慮した河岸形状設定のガイドライン(案)^注」に基づく、掘削後の再樹林化を抑制する掘削敷高や施工方法の工夫等により、河道の安定性に配慮する。

河道掘削の実施にあたっては、掘削土砂を適切に処理するとともに、掘削土砂を堤防の強化対策や流域内農地等に活用することで浸水被害の低減や早期回復を図る等、流域治水に資する対策として活用されるよう、関係機関と連携・調整を図りながら推進する。なお、掘削土砂の農地等への活用にあたっては、民間活力の活用等によるコスト縮減方策や農地への掘削土砂の活用等、地域における有効活用について関係機関と連携して農産業等への効果検証に努める。

注) 樹林化抑制を考慮した河岸形状設定のガイドライン(案)
 (平成 23 年 3 月、北海道開発局・(独)土木研究所寒地土木研究所)
 効果的な樹林化抑制や維持管理コストの省力化を念頭に置いた河岸形状設定や樹木管理を円滑に検討することを目的としてまとめられた。

表 2-1 河道の掘削(河道断面の確保)に係る施工の場所等

河川名	施工の場所(河道掘削)
雨竜川	KP23.8~KP56.8
	KP66.0~KP78.3

注) 今後の状況の変化等により、必要に応じて本表に示していない場所においても施工することがある。